

『光の柱の祈り』 ガイドブック



Project Golden Apple

あっぷるちゃんのご紹介



私たち、Project Golden Apple（プロジェクトゴールデンアップル）のマスコットキャラクター、あっぷるちゃんを紹介します。

あっぷるちゃんは、地球ママのことが大好き。

だから今、傷ついている地球ママを思って、「ありがとう」と心をこめて祈っています。

最近は、仲間たちと一緒に、「光の柱が建ちますように！」という新しい祈りも始めました。

この本には、その「光の柱の祈り」のことで、皆さまが祈る前に知っておいてほしいことが書かれています。

目次

あっぱるちゃんのご紹介	3
光の柱を建てる前に	6
◆三次元世界と霊界	6
◆みんな神の子	7
◆光の柱とは	7
◆地獄へ落ちる人が増えている	8
◆「ここをのぼって帰っておいで」	8
◆地獄界を解消したい	9
◆地球の周期	10
◆シフトアップの条件	10
◆悪想念と天変地異	11
◆混乱の中でも道を見失わないように	12
◆祈りの力	13
みんなで「光の柱」を建てよう	14
(1) 心がまえ	15
◆天と地の共同作業	15
◆祈りは形ではない	15

◆結果を求めない	16
(2) 具体的なおこない方	16
a. 事前準備	16
b. 場所と時間帯	16
c. 磁場調整（地球と一つになる）	17
d. 祈り	17
e. その他	18
(3) 注意すること	18
(4) 遠隔の祈り	19
(5) 補強の祈り	20
(6) Q & A	21
「地球への感謝」から「光の柱」へ	24
◆『光の柱の祈り』と地球アセンション	24
◆光のグリッドで地球を愛の星に	24
◆『地球への感謝の祈り』	25
おわりに	26



光の柱を建てる前に

光の柱を建てる前に、光の柱に関連して、知っておきたい霊的な基礎知識についてお伝えします。

◆三次元世界と霊界

私たちのほんとうの姿は、魂であり、永遠の命をもち、あの世（霊界）とこの世（三次元世界）を何度も行き来しながら、愛を学ぶ旅をしています。

私たちは、死を迎えると、肉体を脱ぎ捨て、霊界へと帰ります。霊界は、四次元から九次元まで、層になって分かれており、死を迎えたとき、その人が、その人生でいかに愛を学んだかによって、帰る世界が違ってきます。霊界は、波長同通（類は友を呼ぶ）という法則がはっきりしているので、愛の精妙さによって、似た者同士が集まり、それぞれの世界に分かれることになるのです。

もっとも深く愛を学んだ方々、愛の波動の精妙な方々が住むのが九次元霊界です。一方、もっとも愛から離れた生き方をした人が住むのが、四次元霊界の中にある地獄界です。

これは、神が裁いて、「あなたはこの世界に行きなさい」と言うものではありません。神の子としてのみずからの良心に照らして、みずからその世界へ行くことになります。自分が自由意志で選んだ人生の結果として、その後に行く世界が決まるのです。

◆みんな神の子

地獄界は、みずからの行いを反省する場所です。

反省し、心に愛の思いが戻ってきたなら、苦しい地獄界から抜け出し、誰でもみな、天国（四次元霊界より上の世界）に帰ることができます。

なぜなら、私たちはみんな神の子だからです。

神とは、宇宙に満ちる愛のエネルギーであり、神からそのエネルギーを分け与えられてつくられたのが私たちです。いま地獄界にいる魂も、ほんとうは愛のエネルギーそのものであり、生まれる前には天国にいて、天国から地上に生まれてきたのです。

地獄霊であるというのは、たまたま道を見失って、神の愛から離れたところにいるというだけのことです。彼らもみな神の子です。反省により、心の汚れを拭き去ったなら、ぴかぴかの神の子としての魂が光り輝くのです。

◆光の柱とは

光の柱とは、三次元世界と霊界のすべての次元を貫く霊的な通路です。光の柱は、肉体の目では見ることはできませんが、私たちが肉体を脱ぎ捨て、魂だけになったとき、誰でも見るようになるようになります。

光の柱は、地上も地獄界も天国もつないでいます。光の柱とは、すべての魂が天国へ、神のもとへと帰っていく道しるべなのです。

◆地獄へ落ちる人が増えている

肉体の死を迎えたとき、本来の愛にかなった生き方をしていたなら、この世から天国へとスムーズに帰れます。光の柱がなくても、あの世のもといった世界に戻っていただけますし、みずから設定した課題をきちんとクリアできたなら、そのひとつ上の次元の世界に帰ることもできます。

しかし現状では、この地上で生きている間に、愛とかけ離れた心境となり、もといった世界どころか、地獄界に落ちる魂がとて多いのです。また、「死んだら終わり、あの世なんてない」という思いのなかで、肉体を離れているのに、自分が死んだことに気づかず、地上をさまよっている魂もあります。地上的なものへの執着から、あの世に帰れないでいる魂もあります。

天上界の霊人たちは、そのような人々に、「こちらへ帰っておいで」と呼びかけたいのですが、波長同通の法則のなかで、彼らを上の世界へ引き上げるのは難しいのです。

◆「ここをのぼって帰っておいで」

そんななか、光の柱を建てることで、地獄霊や浮遊霊など、さまよっている霊たちに、「こっちに神の世界があるよ。ここをのぼって帰っておいで」と呼びかけ、気づかせることができます。

光の柱には、神の愛、あたたかい光があふれています。その神の光に打たれることで、地獄霊たちも、「ああ、懐かしいな。こっちにふるさとがあるんだ」「私たちは神の子なんだ」と気

づくきっかけとなるのです。そして、最終的には本人の自由意志ですが、本人が気づいたなら、光の柱を通して、すーっと天国へ帰っていくことができます。

神は、すべての神の子たちを愛し、救いたいと思っていらっしゃいます。光の柱は、道に迷い、地獄に落ちた霊たちを救済するために用意されたものなのです。

実際、光の柱が本格的に建立されるようになった 2009 年以降、地獄界の人口は大きく減少し、地上をさまよっている多くの人も救済されました。

ただ、地獄へ落ちる人口は相変わらず多いままですし、積極的に悪事を働く地獄霊も多数残っているので、いまだに地獄界は存在します。

◆地獄界を解消したい

九次元には、地球人類を指導してきたヤハウエ、アラー、ブッダ、イエス・キリスト、孔子などの偉大な霊人がいます。六次元より上の世界を天上界と呼びますが、いま、九次元霊をはじめとする天上界の神々は、世界中に光の柱を建てることで、地球を建て直し、新たなステージに向かわせたいと思っています。詳しくはあとで述べますが、そのためのステップのひとつとして、地獄界を解消するというのが、大きな課題のひとつです。

天上界の神々は、多くの光の柱を建てることで、地獄霊たちを救済し、増大した地獄界を解消したいと考えているのです。

◆地球の周期

なぜ、いま、地獄界を解消しなくてはいけないのでしょうか。じつは宇宙には、私たちが知らないだけで、多くの星ぼしがあり、それぞれに人類が繁栄しています。その多くが、地球よりも愛の学びの進んだ星なのです。人々が愛に目覚め、戦争やエゴの争いを卒業している星も多いのです。一方、これまでの地球は、愛について初歩的な学びをする段階の惑星でした。しかし、地球の神々は、そろそろ地球を小学校レベルから、中学校レベルの惑星に変えていきたいのです。地球がそのような星に進化することを、地球の「シフトアップ」と呼びます。いま地球は、シフトアップすることができる重要な時期を迎えているのです。

◆シフトアップの条件

シフトアップには、三つの条件がそろっていないとはいけません。

ひとつめは、地球が「みずがめ座の時代」を迎えていることです。これは、宇宙の周期の中で、地球に霊的進化の追い風が吹く時代で、西暦 2000 年を過ぎた頃から始まると言われていました。

ふたつめは、地球神霊が次の段階に行きたいと願うことです。地球という惑星には、男性意識テラと女性意識ガイアという意識体がペアとなって入っていますが、この地球神霊である

テラとガイアは、地球が次の段階の惑星となることをすでに強く願っています。

最後に重要なのは、地球人の認識が上がることです。

「人間はみな神の子であり、永遠の魂であり、地上に転生輪廻している」。

このことを地球人が認識することです。

これまで九次元霊はさまざまなかたちで地球人類を指導してきましたが、まだ地球人がこのことを認識するまでには至っていません。しかしここをクリアしなくては地球のシフトアップは不可能ですし、こんなにも大きな地獄界を抱えたままでは、シフトアップはできません。

大宇宙の中で、すでにシフトアップした惑星には地獄界はありません。誰もが神の愛の方向に生きているからです。地獄霊たちを一人でも多く救済し、地球人類すべてが神の子として目覚めてほしいというのが、天上界の神々の思いです。

◆悪想念と天変地異

また光の柱には、もうひとつ大きな役割があります。天変地異などで、一度にたくさんの方々が亡くなったときに、その方々がスムーズにあの世に帰る道となるのです。

いま、地球規模で天変地異が増えています。

今後、さらに増えていくと言われています。

天変地異というのは、地球の自浄作用です。地球には、地獄界が増大していることからわかるように、愛に反する思い（悪想念）が黒くうず巻き、病巣のようになり、地球神霊を苦しめています。それを地球がブルブルと身震いして落とそうとするのが、いわゆる天変地異です。

地球が新たなステージを迎える前に、これまでためてきた悪想念は振り落さなくてはなりません。天変地異は、地球人類がみずからまいた種を刈り取るために、これまでの人類の行いの結果として起きていることなのです。

◆混乱の中でも道を見失わないように

天変地異が起きると、日ごろ心がけのいい人も、そうでない人も、みな一度に肉体を離れることになります。そのとき、天変地異の恐怖と混乱の中で、そこに強烈な磁場ができ、本来天国に帰れるはずの人も帰れなくなることがあります。そして恐怖と混乱の中で、「この世に神なんていない」という思いや、エゴ、不信、怒りなど、愛とは反対のさまざまな思いが、エネルギーとしてたまっていく可能性があります。また、地獄的な思いのなかで、地獄霊と波長同通し、地獄界に引き込まれる人も出てきます。これでは、ますます地獄界が増大するだけです。ですから、そんな混乱を未然に防ぐためにも、天上界の神々は、いまの時期に、世界中に光の柱を建てていきたいと考えているのです。

◆祈りの力

「祈ったって、現実是不変わる」「祈るより、行動が大事だ」と言う人がいるかもしれません。

けれども、それは、ほんとうの祈りというものを知らないだけです。

祈りには力があります。祈ることで現実は変えられます。そして、祈ることは、ひとつの行動です。

実際に、私たちが祈ることで光の柱が立ち、多くの方が救われています。

愛の祈りは光であり、黄金色をしています。私たちが愛の祈りをどんどん発信していったなら、黒い悪想念を打ち消していくことさえできるのです。

光の柱の祈りとは、祈りによって、地球を浄化していこうという活動です。



みんなで「光の柱」を建てよう

光の柱を立てるには、まず地上の私たちが、光の柱とはどういうものか、何のために立てるか、天上界の計画とはどういうものか、理解することが最低限必要なことです。

また、祈りという霊的な行為は、ひとつその方向を間違えると、危険を伴います。そうならないように、しっかりと霊的な知識を学ぶことも大切です。

光の柱は、地上界と霊界をつなぐ光のエレベーターのようなものです。光の柱を立てることは、天上界と地上の人間が共同で、迷える霊がそこを通過して霊界に帰っていくエネルギーの流れをつくる作業なのです。

光の柱を立てるには、建立する場所に、3人以上が集い、祈ります。神の愛に同通した人間が最低3人集まることにより、そこに天上界と同じ磁場ができます。そして、地上にいる人間が触媒となって、天上界からエネルギーが引かれ、地上から天上に向かって、一気に光の柱が立つのです。

光の柱が立つと、天上界の波動が、天地を貫きます。一方で、光の柱を立てるためには、次のような心がまえと、準備、祈りが必要になります。

(1) 心がまえ

◆天と地の共同作業

いくら天上界で「光の柱を立てたい」と思っても、天上界の霊人だけでは立てられません。また、いくら地上の人間が「光の柱を立てたい」と思っても、地上の人間だけでは立てられません。光の柱を立てることは、天上界の霊人と地上の人間の共同作業です。そして、波長同通の法則によって、双方の思いが同通することにより、天と地をつなぐ光の柱が立つのです。

ですから、光の柱を立てるには、天上界に同通する愛の思いが不可欠です。そして神の手足として、ただただ無心に祈る姿勢が大切です。自己本位な思いや怒りなどがあつたなら反省により洗い流し、清らかな心で、集中して臨みましょう。

◆祈りは形ではない

その人の出した思いは、エネルギーとして発信されます。ですから、いくら表面的に祈りの言葉を唱えたりしても、思いが伴っていなければ、無力であり、無意味です。

だいじなのは、心から、多くの方々の幸せのために、愛の思いで祈ることです。光の柱をとおして多くの人々を救済したいという天上界の願いを、みずからの願いとして、お役に立たせていただくという姿勢が大切です。

祈り方や形式など、形にこだわることはありません。

◆結果を求めない

光の柱が立ったかどうか、肉眼では見ることはできません。立っているかどうか気になるかもしれませんが、それにこだわっても仕方ありません。磁場が悪かったりと、さまざまな理由で、立たないこともあります。

たとえ光の柱が立たなかったとしても、あなたが愛の思いで心から祈ったなら、愛のエネルギーはこの地球上に確実に発信されていますし、けっして無駄ではありません。天上界の神々も、結果を求めているわけでもありません。あなたが、他の方々の幸せのために祈っている、そのことを喜ばれるのです。

(2) 具体的なおこない方

a. 事前準備

この小冊子を読み、天上界の思い、光の柱の意味と意義をよく理解しましょう。

b. 場所と時間帯

できるだけ磁場のよい場所を選びます。神社やお寺の境内、教会、自然の多い場所、公園など、祈りに集中できそうな場所を選びましょう。繁華街の真ん中などは、磁場が悪く立ちにくいこともあるので、なるべく多くの人数で祈った方がよいでしょう。

また、光の柱の祈りは、原則として日中に行います。

c. 磁場調整（地球と一つになる）

磁場調整に一番大事なことは、参加者が地球への感謝の心で一つになることです。

まず『地球への感謝の祈り』を捧げましょう。

私たちは地球に住む、ひとつの家族です。

風や水、木々の美しさ、大自然に感謝し、与えられた肉体を感じながら、自分が地球や地球に生きる仲間たちと一体であることを感じてみてください。

d. 祈り

3 分間、集中して祈ります。

心の中で、「光の柱を建てたまえ」「天地をつなぎたまえ」「光の通路をつくり、この地球を神の星になしたまえ」など、祈ります。光の柱を思い描いて祈るとよいでしょう。

また、「地球が浄化されますように」「多くの方々の魂が救われますように」「神様のご計画が成功しますように」などの思いも込めて祈ります。

祈りとは神との対話であり、自分の言葉で祈ることがなにより大切です。

e. その他

神社仏閣で光の柱を立てる場合、建立の祈りの前に、拝殿で参拝をして、「今からここで光の柱を立てさせていただきます」と、御祭神に挨拶します。これは、境内をお借りして祈ることへの礼儀としての挨拶であり、光の柱の祈りそのものは、これとは別に3分間、天上界に向けて祈ります。最後、境内を去る前に、再度御祭神に「この場でお祈りさせていただき、ありがとうございました」と、お礼の参拝をします。

光の柱の祈りは、御祭神に対してではなく、いついかなる場でも、天上界に対して行うものであることを忘れないようにしましょう。

なお、光の柱は、祈っているその場所に立つとは限らず、境内のもっともふさわしい場所を天上界が選んで立ててくださるので、祈る場所にはこだわらなくてかまいません。必ずしも拝殿の前でなくてもよく、静かに集中できるところに場所を移して行っても問題ありません。

（３）注意すること

祈りは、天上界に向けて行います。けっして地獄霊や浮遊霊にたいして「この光の柱からお帰りください」など、呼びかけたりしないでください。波長同通の法則により、思いを向けると、地獄霊にとり憑かれて、エネルギーを奪われたり、体に不調が現れたり、精神的に不安定になったりすることがあり、大

変危険です。

自殺の名所や、悲惨な事件があった場所（たとえば天安門広場のような場所）での祈りは避けること。亡くなった方が、地上の人間にしがみついたり、とり憑かれることがあります。非常に地獄的な磁場ができている場合は、祈る人の心次第で、地獄界への通路ができてしまう可能性もあるので、とにかくそのような場所で立てようとはしないでください。

神社仏閣での建立について。光の柱を立てる計画を立てると、霊界でもその情報をキャッチし、その神社の神々や霊界のお坊様方が、その場を浄めたりして、喜んで準備をしてくださっていることが多いものです。地上の私たちには見えないだけです。そのため、神社仏閣での光の柱建立の直前の中止は失礼にあたるので、なるべく避けるようにしてください。

（４）遠隔の祈り

祈りはエネルギーですから、どんなに遠く離れていても届きます。

光の柱を立てる際、現地に三人以上いることが不可欠ですが、その場に行けない人たちも、同じ時間に現地に向けて祈ることによって、祈りの力がより大きくなり、より太い柱が立てられるようになります。これを「遠隔の祈り」と言います。

遠隔の祈りの協力を得るため、事前に、建立場所とその日時をアナウンスしておくといいいでしょう。

(5) 補強の祈り

一度立った光の柱は、そこから救われる人が増えるにつれ、どんどん太くなっていきます。反対に、柱が使われなかったり、その磁場が悪かったりすると、柱が細くなったり、なくなってしまうことがあります。そのため、一度立てた場所にも、再度訪れ、光の柱の祈りをする 것도大切です。これを「補強の祈り」と言います。

補強の祈りの場合は、現地に三人そろう必要はなく、一人でもかまいません。また、現地に行けなくても、遠隔の祈りとして行うこともできます。同じ時刻に大人数で祈ることで、より強固な補強ができます。



(6) Q & A



Q1. 家族3人で光の柱建てをしたいと思いますが、子どもも一人として数えていいのでしょうか。

A1. お子さんは、5歳からメンバーとして参加できます。その際には、やさしい言葉で、光の柱のことや祈り方について、教えてあげてください。



Q2. 1日、光の柱建てに参加したあと、すっかり疲れているのですが、祈り方が悪いのでしょうか。

A2. 光の柱の祈りは、集中し、エネルギーも使うため、終わったあとは、心地よい疲労感を覚える方が多いようです。このため、1日に10数本、20本以上立てるようなスケジュールでは、集中力が続かず、結局、一本も立っていなかったという結果になりかねませんから、無理のない行程で、1本1本、心を込めて祈るようにしましょう。



Q3. 霊視したとき、光の柱が見えるのですが、場所によって柱の色が違うのはどうしてでしょうか。



A3. 神社や寺、教会、海など、その場所を守護してこられた天上界の霊人が、その霊人の個性に応じて、虹色や金色、赤など、思い思いの色とりどりの柱を建てられるからです。光の柱にも、それぞれの霊人の個性が表されているのです。



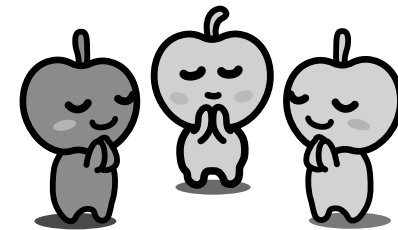
Q4. メンバーの中に霊媒体質の女性がいて、「ここは磁場が悪いからやりたくない」「もう立ったのが見えるから、祈りをやめてもいいのでは」と言います。どうすればいいのでしょうか。



A4. 神社や寺であっても、磁場の悪い場所もあります。霊的に敏感な方の中で気分の悪くなる方がいたり、メンバーの多くがなんとなく気が進まないようなところであれば、無理をせず場所を移動したり、建立場所を変更したりしてください。また、祈りは、最低3分間は続けてください。すぐにやめてしまう

と柱が安定しないので、3分祈ることは大切です。

ときには霊視ができる人などをありがたがって、立ったかどうか聞いたりするケースもあるようですが、無意味なことです。結果を求めず、神の手足として無心に愛の思いで祈ることが、なにより大切です。



「地球への感謝」から「光の柱」へ

光の柱の祈りと地球への感謝の祈りは、地球にエネルギーを与え、地球が次の霊文明を迎える受け皿となるものです。

その意味についてご説明します。

◆『光の柱の祈り』と地球アセンション

地球人類の認識が上がり、シフトアップしていったなら、地球人の肉体も今より精妙な波動に次元上昇します。これを「アセンション」と呼びます。このとき、地球自体もより精妙な波動になります。地球自体もアセンションするのです。このとき光の柱が、重要な役割を果たします。

◆光のグリッドで地球を愛の星に

光の柱が地球上に次々と立っていったなら、最初は「点」のような柱が、やがて「線」になり、さらにその光の線が交差して「光のグリッド（網目）」ができます。とくに光の線が交差しているところは、拠点としての力が強く、地球がアセンションで次元上昇していくときのエネルギー回路になるのです。

アップルパイというのは、中にりんごが入っていて、周りにパイ生地が交差しています。りんごが地球で、周りのパイ生地が光のグリッドです。そして、光のグリッドの中にできたそれぞれの面が、光の磁場となり、地球が黄金色に輝き出すのです。

光の柱を地球上に次々と建てて、地球を「黄金のりんご」のように輝く、愛のエネルギーを全宇宙に向けて発信する星にする。それが「光の柱の祈り」です。

◆『地球への感謝の祈り』

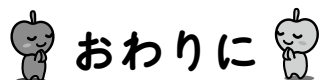
Project Golden Apple は、『光の柱の祈り』の他に、毎日正午に、地球に生かし育てていただいていることに感謝を込めた『地球への感謝の祈り』を世界中の皆さんに呼びかけています。

人類のエゴの思いなどの悪想念が地球を痛めつけており、地球は満身創痍の状態です。これを浄化するための祈りが「地球への感謝の祈り」です。

一人だけでは光の柱は建てられませんが、『地球への感謝の祈り』は一人でも祈ることができます。地球のそれぞれの場所で、私たちが正午に合わせて祈ると、地球の自転に合わせて、祈りのエネルギーが黄金のミストになって地球を包みます。これを何度も何度も繰り返し、祈る人々の数が増えていったとき、最後地球が黄金のオーで包まれて浄化され、地球がアセンションすることができるのです。

地球人類が、「黄金に輝く地球」という共通のビジョンのもと、地球を私たちの感謝の祈りの光で包み、地球を痛めつけている人類の悪想念を浄化する。それが『地球への感謝の祈り』です。

大自然（例えば、山や海や湖や川のほとり等）の中で祈るのもよいでしょう。



おわりに

祈りには力があります。

一人の力は小さくても、三人集まれば、光の柱を建てることができます。三人よりも十人、十人よりも二十人…、より多くの人の思いが集まれば、より太い柱が立ちます。一度建てた場所でも、そこで、二度、三度と繰り返し祈ることで、さらに太い柱になります。

そうやって、自分たちの町を、国を、光り輝かせていきましょう。

祈りの力は国境を越えます。

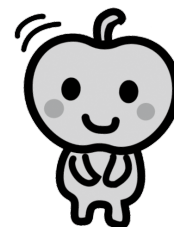
たとえどんな遠い国であっても、あなたが祈るとき、私たちはあなたの祖国のために、ともに祈りたいと思っています。なぜなら、私たちは同じひとつの地球に生きる家族だからです。

いま地球は、地球人類の悪想念で、瀕死の状態です。この地上を浄化するのは、この地上を汚してしまった私たちの責任であり、地球を浄化するには、地上に生きる私たちのエネルギーが必要です。

「黄金のりんご」のように光り輝く地球を思い描いて、地球人類がひとつとなって、ともに祈りましょう。

新しい地球の未来のために――。

Project Golden Apple



『光の柱の祈り』ガイドブック

発行日 2025 年 7 月 1 日 第一版

発行者 Project Golden Apple

